

通常の弱いオーロラは、天の川よりやや明るい程度の非常に淡い光芒です。それが、北西～北～北東の地平線上に、虹のように弧を描いてボーッと光っているのが、ごく普通に見られるオーロラの典型的な姿です。そのような弱いオーロラは、街明かりにも月明にも弱く、月夜の晩には月明に溶け込んでしまって、肉眼では見えなくなります。

しかし、太陽活動が盛んな時にだけ出現する「ブレイク・アップ（オーロラ爆発）」と呼ばれる状態になると、暗夜だろうとおと月夜だろうと関係ありません。写真の日も、雪面を昼のように照らす明るい月夜だったにもかかわらず、それに負けずに非常に明るいオーロラが出現していました。

オーロラは色や形状によって、以下のA～Fの6種類に分類されます。

**タイプA**：上部が赤い緑色のオーロラ。上部の赤色は暗いことが多く、肉眼ではなかなか見えない。

**タイプB**：下端が桃色になる、緑色のオーロラ。太陽嵐が地球に届き、「ブレイクアップ」（オーロラ爆発）が発生した時によく見られる。

**タイプC**：最もよく見られる、ほぼ緑色一色のオーロラ。

**タイプD**：巨大フレアによる大規模な太陽嵐が発生した場合に、中緯度地方で見られる、赤いオーロラ。オーロラの上部だけが、地平線上に現れて見えている状態。「低緯度オーロラ」とも呼ばれる。

**タイプE**：タイプBと同じだが、非常に活動的で激しく揺れるように見えるオーロラ。

**タイプF**：上部が太陽光に照らされたときに見られる、紫色のオーロラ。春や秋によく見られる。月明によって青っぽく見えるオーロラもある。

写真のオーロラは典型的な「タイプE」のオーロラで、現地で肉眼で見た人は、非常に激しく動くカーテン状のオーロラを観望できたはずです。

(2025年3月上旬/スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅/東京から遠隔観測)

